

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 新 高校生と中学生が共に学ぶキャリア支援事業

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校支援課 総合支援第二係 電話番号：058-272-1111 (内 3549)

産業教育係 電話番号：058-272-1111 (内 3881)

E-mail：cl7782@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,842 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 11,842 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11,842 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

生徒の将来の社会的・職業的自立を図るために、中高の接続等に当たり目的意識を持った進路選択が行われるようなキャリア教育の取組が求められている。これに加えて、専門高校においては、義務教育段階から、地域産業や専門高校に対する興味・関心や理解を醸成する取組が必要とされている。

(2) 事業内容

高校生が、自分の学んできた学習成果を、専門高校体験講座、普通科・総合学科フェア、出前授業を行うことで、「地域社会人」として活躍する人材の大切さを中学生に伝え、中学生のキャリア教育の充実を図る。

① 専門高校体験講座「キャリアチャレンジ Day」

- ・各高校において、年間3～4回の体験講座を実施する。
- ・中学1、2年生が、興味・関心に合わせて参加する。

② 出前授業「デリバリーなるほどキャリア Day」

- ・高校生が中学校からの依頼に基づき、中学校に出向いて授業を実施する。
- ・職業に対する考え方、地域の現状と課題など、高校での学びの成果を踏まえ、中学校に発信する。

③ 高等学校フェア

- ・ 地区ごとに普通科・総合学科・専門学科の高等学校が一堂に会し、学校の特色や地域課題等の取組について、中学生へ発信する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|----------|--------|---------|
| 消耗品費 | 7,680 | 体験学習材料費 |
| 保険料 | 336 | 傷害保険 |
| 使用料及び賃借料 | 3,195 | 会場使用料等 |
| 旅費 | 631 | 引率旅費 |
| 合計 | 11,842 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針 1 んふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標 2 地域と連携したキャリア教育の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中学校においては、社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等について考えたり、目標を立て計画的に取り組む態度を育成して進路の選択・決定に導いたりするなど、生徒の職業観・進路・生き方の形成を図る。

高等学校においては、生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度を育成したり、勤労観・職業観等の価値観を、自ら形成・確立したりするなど、高校生自身のキャリア形成を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 <small>（前々年度末時点）</small> | 目 標 | 達成率 |
|---|-------------|-------|-------|---------------------------------|---------------|-----|
| 県内就職率（高校生） <small>（学校基本調査より）</small> | 未集計 (R2) | (R) | (R) | 75.2% (H30) | 80.0% (R5) | % |
| | | | | | | |

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い | |
| (評価) | 将来の社会的・職業的自立のために必要な資質・能力の育成や、中高・高大の接続等に当たって目的意識をもった進路選択が行われるよう、キャリア教育の理解の深化を図るとともに、多様な進路選択の実態も考慮しながら、進路指導やキャリア教育の取組を充実することが求められているため。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある | |
| (評価) | WEB会議室を活用することで、各県立高校の特色ある学びを県下全ての中学生に配信することができる。 |

(今後の課題)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 中学校と高等学校の連携・協働による、生徒の主体的・対話的で深い学びの場及び体験的な活動を支援する必要がある。 |
|--|

(次年度の方向性)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中学校と高等学校の連携に加え、生徒の職業観・進路・生き方の形成を図る。 |
|--|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | |
| 組み合わせる理由や期待する効果 など | 【○○課】 |